

## 1980年代

- ・ 過大包装追放、発泡スチロールトレーの自粛量販店との懇談会、要望書提出（1982年）
- ・ トレー包装懇談会（1983年12月）
- ・ 豊田商事事件 消費者被害届 現物まがい商法急増（1985年）
- ・ トレー包装について量販店と懇談会（1986年）
- ・ 地球環境保全の関心高まるフロンガスでオゾン層の破壊（1989年）
- ・ 環境を考える、消費者と量販店と行政の懇談会（1989年）

1982年

過大包装追放、発泡スチロールトレーの自粛  
量販店との懇談会、要望書提出

### 要旨

- ・ トレー包装の問題 ・ 省資源 ・ ゴミの量が増える
- ・ 商品の中身がわからない ・ 包装経費を押しつけられる



1983年12月 トレー包装懇談会

- ・ 土物野菜 unnecessary トレー包装が多い



1985年 豊田商事事件 消費者被害届 現物まがい商法急増

- ・ 消費者被害届出運動を堺東駅頭等にて行う。
- また、有害添加物の規制緩和に対する反対運動も同時に行う



1986年  
量販店との懇談会

- ・ 物価モニター、物価調査に基づく要望



「コンビニをなくすな、業者五十八人が参加。まず、商品の違反が明らかになった。あるスーパーでは十八品目を違反品として取り上げ、結果を報告した。百圓店を業者と消費者との懸談会が十八日、堺市北瓦町二丁の市立消費生活センターで開かれ、業者側から十七社十八人、消費者側から一人、計十八人が参加した。この結果、全店が自主規制を守っており、一店も平均八割の違反品がなくなった。また、消費者側から業者側へ、有害添加物の規制緩和を強く反対する声があつた。この結果、業者側は「産地を指定し、トレーサビリティを確保する」と約束し、消費者側は「産地を指定し、トレーサビリティを確保する」と約束し、消費者側は「産地を指定し、トレーサビリティを確保する」と約束した。

「トレ」包装追放へ  
業者者と消費者が懇談会

1989年

環境を考える、消費者と量販店と行政の懇談会

(量販店18店21名、百貨店2名、行政5名、消費者81名)



・トレー調査報告 行政側ゴミの実態

1日平均3.5枚 堺市の世帯数266,474(戸)×3.5(枚)=932,659

1日約100万枚のトレーがゴミとして捨てられている。

大気汚染、高熱のため炉がいたむ。